

世界農業遺産に静岡・熊本・大分の登録決定!

～農村活性化の好機となれ

5月29日石川県七尾市にて世界農業遺産会議が開かれ、国際連合食料農業機関(FAO)は新たな世界重要農業遺産システム(GIAHS/ジアス)の登録地域として静岡県の掛川市ほか4市町村の周辺地域、熊本県の阿蘇市ほか6市町村の周辺地域、大分県の宇佐市ほか4市町村の国東半島周辺地域の3地域を選定した。

ジアスとは通称、世界農業遺産のことで、土地の環境を生かした伝統的な農業・農法や生物多様性が守られた土地利用、農村文化や農村景観などが一体となり維持保全が図られている地域を認定し後世に引き継ぐことを目的としている。既に我が国では2011年に石川県の8市町村の「能登の里山里海」、新潟県の佐渡市の「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」で登録されている。世界では日本での2事例を含めて11カ国19ヶ所が登録されている。能登の里山里海では稲の天日干しや海女漁、2千を超える農業用ため池、白米の千枚田を始めとした棚田、里山景観等が評価されている。地元では農村の6次産業活性化のため能登ブランド作りに励んでいる。佐渡の例では朱鷺の自然繁殖復活に向けた環境整備を行ない、水田環境の整備や肥料選定・農薬使用に至るまで基準を設け朱鷺と農村が共生する仕組みが評価されている。佐渡については来月開催予定の全国菱肥会研修会での現地視察予定地となっているのでご参加頂ける会員の皆様は楽しみにして頂きたい。

今回新たに選定された静岡県の「茶草場農法」は5市町村からなる「茶草場」は茶園周辺のススキを刈り取って圃場を土壌改良維持する農法。熊本県の阿蘇地域は野焼きにより新たな牧草の成長を促す放牧地での管理維持農法。大分県の国東半島・宇佐地域はため池群とクヌギ林から管理される椎茸栽培での農林業循環システムがそれぞれ評価された。世界農業遺産は新たな観光資源ともなり地域の活性化に繋がるため効果的ではないだろうか。自然と共生しながら農業が営まれる重要性についても今一度考える良い機会であり、我が国で誇れるものがあるということはとても嬉しいことだ。



佐渡 郷づくり認証米シール
(ブランド化の一例)



能登の里山里海をPRするパンフレット



阿蘇の野焼き (FAO HPより)



国東・宇佐のPRポスター
(大分県HPより)



草茶場の風景
(中日新聞より)

中国産生姜の影響

5月上旬、使用が禁じられている「アルジカルブ入り」農薬で栽培した山東省の生姜生産者が中国で摘発された。「アルジカルブ」は毒性が強く、摂取量が50ミリで死に至ると言われている。その為、日本でも使用が厳しく管理されており、厚生労働省ではこれまで一検体あたり生姜については0.05ppmの残留基準値を設けてきた。しかし、昨年「アルジカルブ」に関する事案が海外で相次いだことを受け、厚生労働省はこの6月28日より残留基準値の厳格化を昨年12月28日に通達した。



その内容は青果物では殆どの品目で0.05ppmから0.01ppmに基準値を引き上げ、果実も同様に実施となっている。只、その実施は段階的としている。この状況について市場関係者は「生食用では中国産シェアが少ない為、影響も限定的」とする一方、業務用についてはシェアが高い品目が多く、対応に苦労している会社が多い。段階的実施ということもありパニックにはならないとの見方が大勢だが対応策は講じなければならない。国産メインに切り替えるとして国内産地の開拓に注力していく方針の会社もあるが、業務商材の場合コストの問題が立ちだかる。国産起用となればコストアップは避けられず、しかし商品の小売価格への転化が容易ではないことから、国産へのシフトはまだ思ったほど進んでいないのが実情だ。コストの対応策としては農業法人を設立したり、契約栽培を拡大するといった策が考えられるが、軌道に乗せるのは難しい。野菜全般では、生食用と業務用の数量割合で業務用が6割を超えている品目が多く、業務筋である食品メーカーの動向が今後注目される。

尚、上記状況の中で業務系の食品会社がまだ小規模ではあるが農業法人を立ち上げ事業を拡大している会社がある。詳細は後日報告する。

ブロッコリーは速効性肥料と出蕾前の追肥で勝負あり!

～元肥は速効性肥料、出蕾2週間前からの追肥が効果あり

長野県野菜花卉試験場佐久支場で、ブロッコリーの出蕾2週間前から出蕾時期にかけて窒素吸収量が最も高まる事が分かったとプレスリリースした。更に、出蕾期以降の追肥は効果が少なく品質低下に繋がる恐れもあるという。また、他の品種や他の作型・栽培時期が異なっても、吸収する傾向は同じであるとの結論を出した。同試験場では速効性肥料を元肥主体に使用し追肥は出蕾期前の施肥にて出蕾期以降の追肥をしない事を勧めている。理由としては出蕾をピークとしてそれ以降から収穫期までは窒素吸収量が低下していくからだ。また、追肥で窒素が効きすぎるとホローステム(茎内の空洞化現象)の助長に繋がり品質低下に繋がることも指摘している。元肥は速効性化成肥料、出蕾2週間前(定植より約5週目)の追肥で窒素質肥料の過剰施肥に気をつけるのが高品質ブロッコリー栽培のポイントとなる。これからブロッコリーを栽培される方は是非お試しあれ!



今回ご紹介した世界“農業”遺産がある事をご存知でしたか?私は今回初めて知りました。富士山が世界文化遺産に登録された事と併せて、静岡県はダブル登録ですね。一度は富士登山にチャレンジしたいと思っておりますが、最近の富士山ブームで週末の山頂付近は大渋滞が起きているとか。世界遺産に登録された事で更に賑わいそうですが、観光客増加による影響で課題も多そうです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>